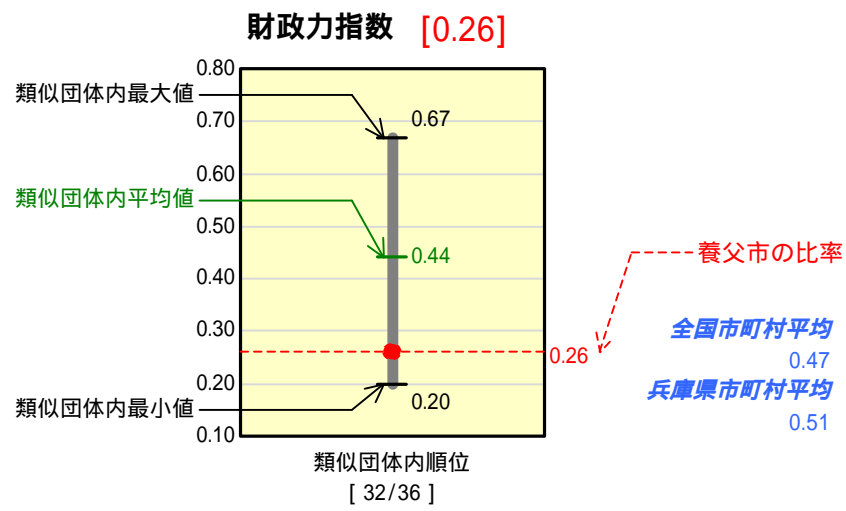


市町村財政比較分析表(平成16年度決算)

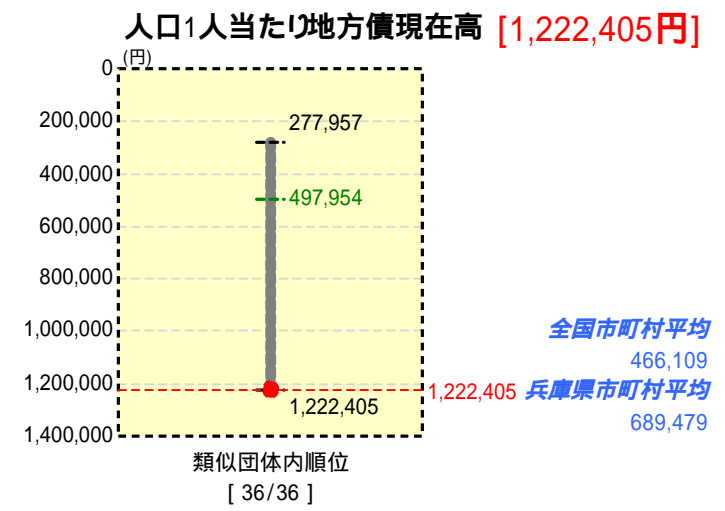
兵庫県 養父市

人口	29,520人(H17.3.31現在)
面積	422.78 km ²
歳入総額	25,036,286千円
歳出総額	23,785,344千円
実質収支	724,466千円

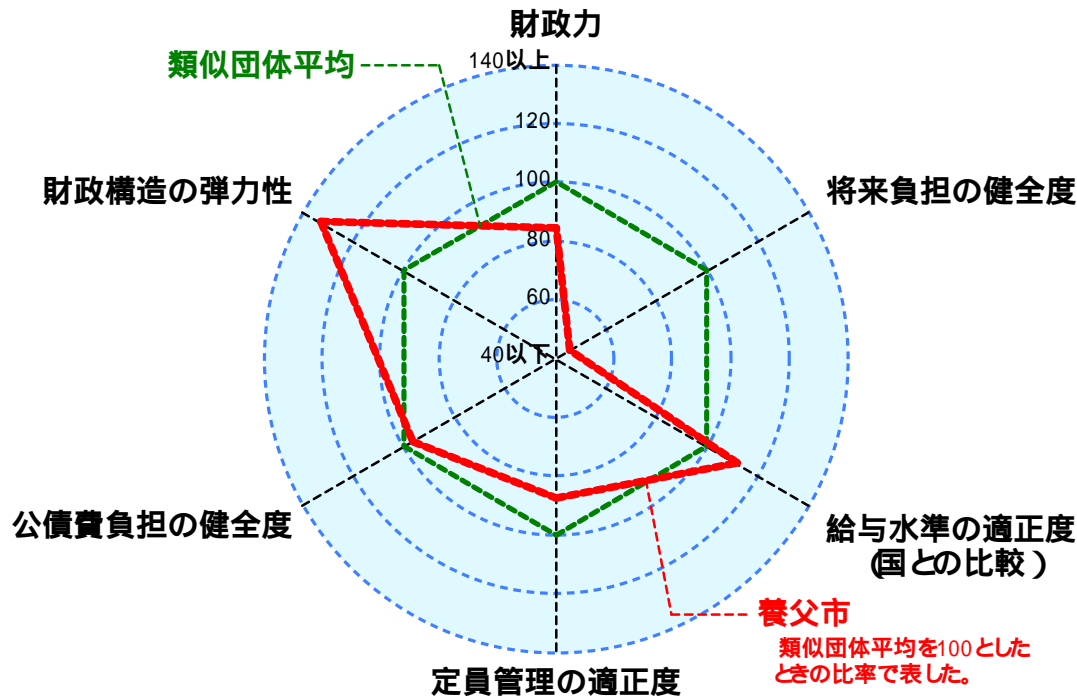
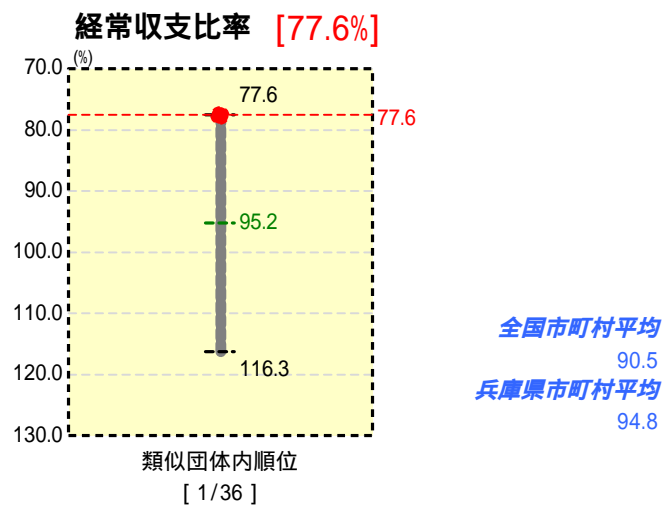
財政力



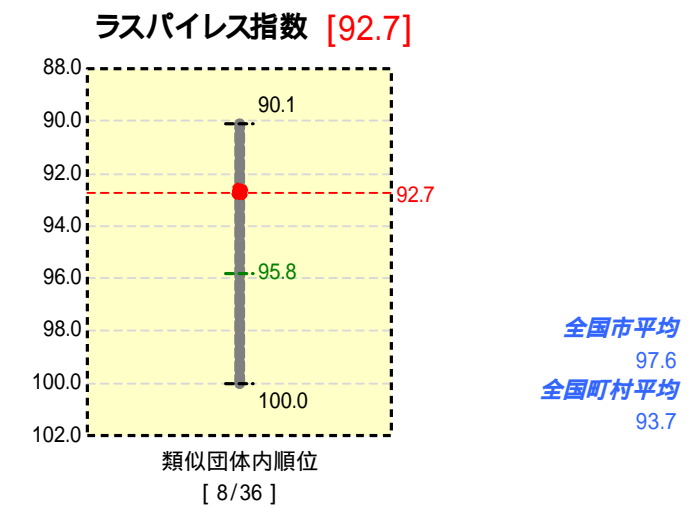
将来負担の健全度



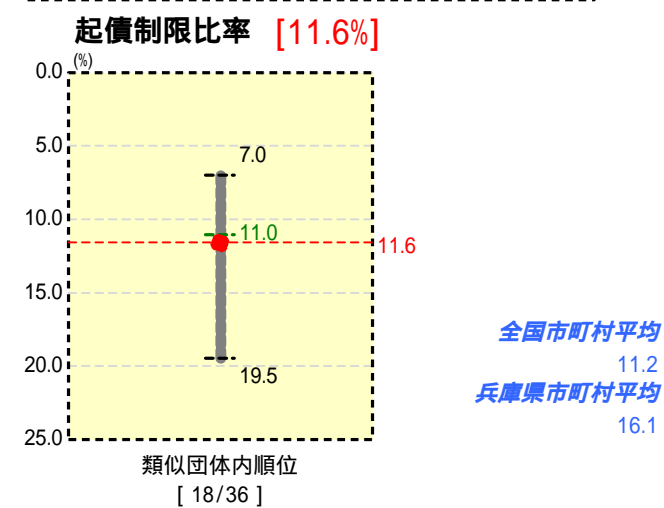
財政構造の弾力性



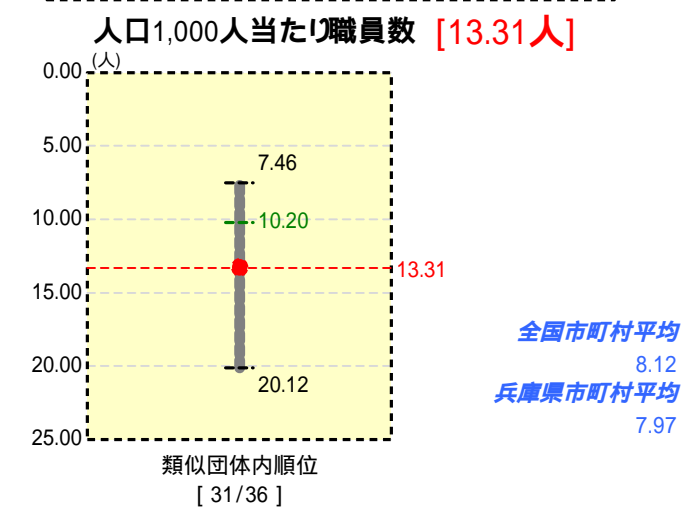
給与水準の適正度(国との比較)



公債費負担の健全度



定員管理の適正度



分析欄

【財政力指数】過疎化・高齢化による人口の減少に加え、市内に基幹産業が無いことから、財政基盤が弱く、類似団体の平均を大きく下回っている。平成18年から21年までの期間を市独自の「前期集中改革プラン」と位置付け、この4年間に集中して行政改革大綱に基づいた改革を確実に実行し、効率的で効果的な行政を構築し、もって財政基盤の強化を図る。

【経常収支比率】合併1年目の決算は、類似団体や全国平均を大きく下回っているが、これが通常年の姿ではない。合併後の職員総数457人は類似団体と比較しても多く、行政改革による定員適正化計画に基づいた人員削減や公債費の削減などあらゆる面から事業の見直しを行い、前期集中改革プラン内に経常経費の削減を行う。

【起債制限比率】平成16年度は11.6であるが、平成18年度には14.0台となる見込みである。このため、長期的には大幅な投資的事業費の抑制と安易な地方債への財源依存体質を改め、短期的には毎年繰上償還の実施により制限比率の抑制に努める。

【人口1人当たり地方債現在高】過疎化・高齢化が進むなか、活力ある地域づくりのために、社会資本整備等のために多額の地方債を発行してきたため、類似団体の中でも最も高い地方債現在高となった。今後は事業総額1億円以上の事業については、事前事業評価制度の導入を図り、新規要望事業の精査を厳しく行う中で新規地方債発行の抑制を行う。

【ラスパイレス指数】以前からラスパイレス指数は類似団体や県下でも比較的低い。行革大綱により平成21年度までに職員数の7.4%34人の削減を図るため、退職者の1/3補充等により定員管理に努める。

【人口1,000人当たり職員数】市域面積422.78Km²、谷筋を幾筋も持つ地形的特徴から、人口当たり職員数は高くなっているが、今後はサービスの低下を招かぬように配慮しつつ、職員数の削減に努力する。